

巨大壁画「電気の精」 生誕88周年記念シンポジウム

主催 電気学会 電気技術史技術委員会
共催 メタエンジニアリング研究所
千葉大学

2025年**10月16日(木)**
14:00～17:30

場所：千葉大学 西千葉キャンパス
電気電子工学コース大会議室

参加費無料
事前申込制

参加お申込みは
こちらから ⇒
(〆切：10月13日)



1937年、ラウル・デュフィーがパリ万博に描いた巨大壁画「電気の精」。哲学者・科学者・技術者108名を讃えるこの作品の誕生から88年を記念し、千葉大学でシンポジウムを開催します。



ラウル・デュフィー作「電気の精」

プログラム

1. 千葉大学における電気技術継承と資料室の紹介(予定)
2. 電気の精の最近の研究話題(予定)
3. ラウル・デュフィーと藤田嗣治のつながり
4. 工学部教育における専門科目と科学技術史との融合
5. 千葉県立現代産業科学館での『電気の精』展示報告
6. 千葉大学 資料室の見学

パリ近代美術館
『電気の精』
日本語訳HP

